

文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究(シ01)

目的 国内外の諸機関との連携を見据え、当研究所の文化財に関する調査研究成果・データをより国際的標準に見合うかたちに整え、効果的に共有してゆくための研究を行う。併せて地方公共団体と文化財に関する情報の提供と共有を行うことを視野に入れる。

- 成果**
1. 調査研究成果の公開と、研究情報の国際発信
 - ・平成29年度に引き続き、当研究所刊行の論文等を Japanese Institutional Repositories Online (JAIRO) を通じて公開する作業を進め、『美術研究』、『無形文化遺産研究報告』、『保存科学』の3タイトル62件を今年度新たに追加し、合計7タイトル3,516件の論文・刊行物のフルテキストを掲載・公開した。
 - ・アメリカ・ゲッティ研究所のゲッティ・リサーチポータルに『美術研究』、『日本美術年鑑』、『保存科学』の情報を提供し、掲載件数は636件となった。今後も提供データを増やしていくための調整・協議と作業を進めた。
 - ・平成29年度に引き続き、展覧会カタログ所載記事・論文のデータを「東京文化財研究所美術文献目録」として、世界最大の共同書誌目録データベースであるOCLCのセントラル・インデックスに情報を提供し、今年度は2014(平成26)年と2015(平成27)年の文献情報約6,000件を追加した。
 2. 国内外の関連機関との協働研究・協議
 - ・京都府所蔵資料の情報共有について協議し、昭和初期の資料のデジタル化を行った。
 - ・ゲッティ研究所との共同研究事業によって各種の公開事業を進めたほか、国立歴史民俗博物館で開催された国際シンポジウム「アート・歴史分野における国際的な標準語彙の活用ーGetty Vocabulary Programの活動と日本」に参加し発表を行った。
 - ・日本資料専門家欧州協会(EAJRS)、国際美術図書館会議、アート・ドキュメンテーション学会などに参加し、口頭発表を行い、日本美術の国際情報発信に努めた。
 - ・イギリス・セインズベリー日本藝術研究所と日本美術及び同研究に関する英語文献・記事情報の採録に関する運用面での協議を行い、講演を行った。

- 発表**
- ・橘川英規：「明治期～昭和期刊行博覧会・展覧会資料のオープン・アクセス化事業」日本資料専門家欧州協会(EAJRS)リトアニア大会 18.9.12
 - ・Tomoko Emura, The Contribution of the Tokyo National Research Institute for Cultural Properties: *Art Bibliography in Japan for OCLC Central Index* (江村知子「東京文化財研究所の情報発信：OCLCセントラル・インデックスへの日本美術文献の情報提供」) 第8回国際美術図書館会議 18.10.5
 - ・橘川英規：「日本の展覧会カタログ論文の国際的可視性を高めるための取り組み：「東京文化財研究所美術文献目録」のOCLCへの提供」アート・ドキュメンテーション学会第11回秋季研究集会 18.10.13
 - ・安永拓世：「与謝蕪村筆「鶯・鴉図」に見るトリプルイメージ」セインズベリー日本藝術研究所 18.11.15



セインズベリー日本藝術研究所での講演会

研究組織 ○江村知子、橘川英規、安永拓世、米沢玲、二神葉子、小林公治、塩谷純、小林達朗、小野真由美、城野誠治(以上、文化財情報資料部)、久保田裕道(無形文化遺産部、文化財情報資料部兼務)、吉田直人、早川典子(以上、保存科学研究センター、文化財情報資料部兼務)、加藤雅人、西和彦(以上、文化遺産国際協力センター、文化財情報資料部兼務)、津田徹英、永崎研宣(以上、客員研究員)